

## 第2節：会社についての評価

続いて、回答者が現在働いている会社について、また会社での働きやすさについて、どのような評価をしているのかを単純集計の結果から見ていきたい。

まず「会社は働きやすい」という質問については、図3-1-12のように、93.6%の回答者が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えている。これは非常に高い数字であるが、中部地方の主要企業で働く労働者であるということが、その理由であると考えられる。また今の会社で定年まで働きたいという質問についても、図3-1-13のように、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」というポジティブな回答が88.5%となっている。これは現在の会社に満足している回答者が多いことを意味している。

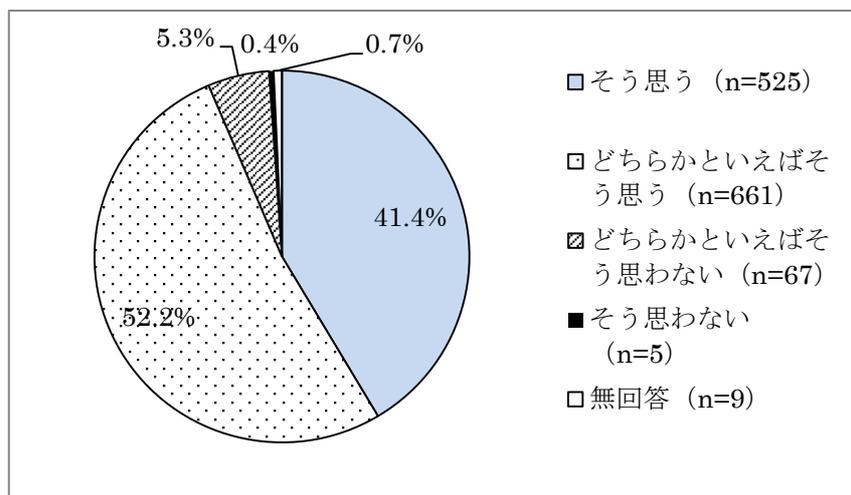


図3-1-12：会社は働きやすい

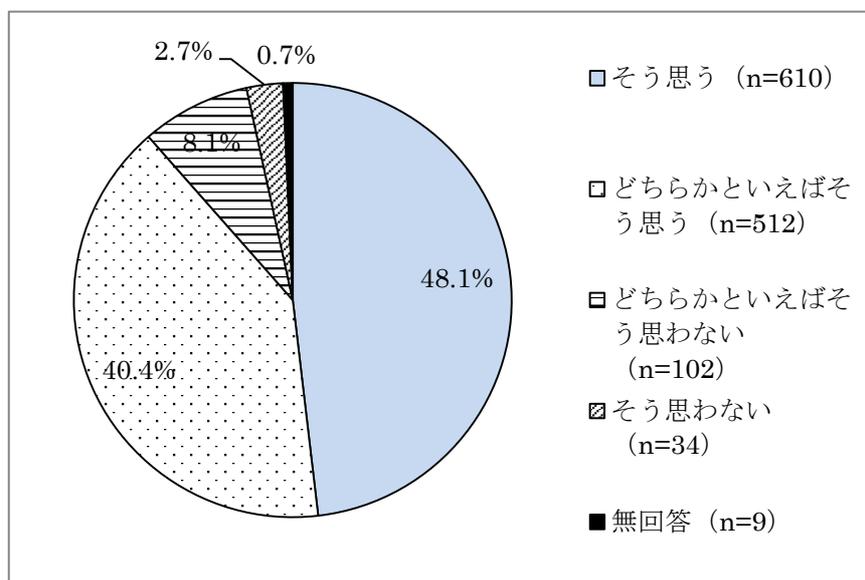


図3-1-13：定年まで働きたい

そして、「定年後もこの会社で働きたい」という問に対しては、図3-1-14のように、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と59.8%とおよそ6割となっている。定年まで働きたいかという質問へのポジティブな回答と比較すると、定年後も働くことを望む割合は減少しているが、これは会社における処遇が十分なものであり、定年で仕事を辞めたとしても生活に困らないからなのか、また別の企業等での活動を希望しているからなのか等はこの結果だけではわからない。しかし、およそ6割が継続雇用を考えていることは、非常に高い数値だと言えるだろう。

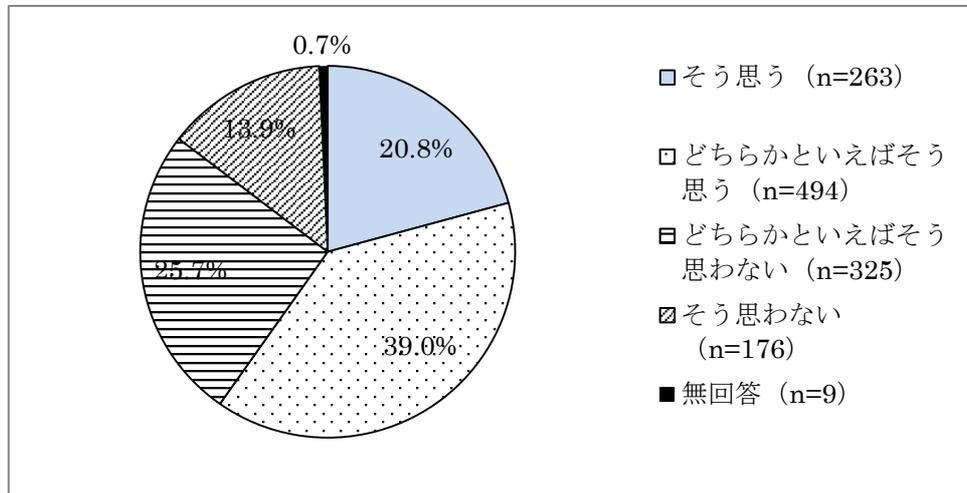


図3-1-14：定年後もこの会社で働きたい

それでは、現在の仕事に対して不満を持っているかを考える上で参考になるとと思われる転職希望についても見てみよう。

まずこれまでに転職を考えたことがあるという回答者の割合は、図3-1-15のように、31.8%である。

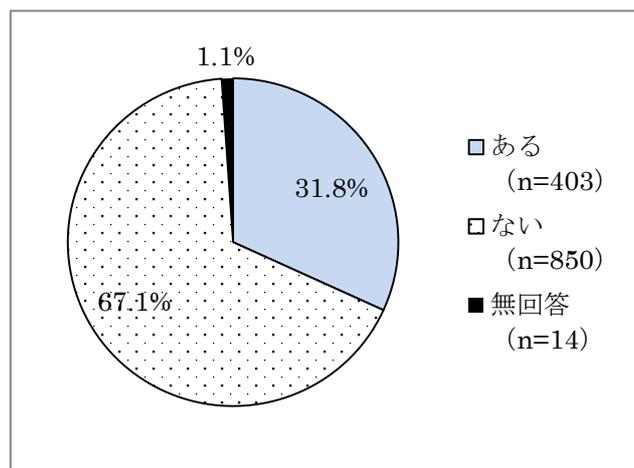


図3-1-15：これまでに転職を考えたことがある

また「すぐにでも転職したい」という質問に対して「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と答えた回答者は、図3-1-16のように全体の2.3%だった。

次に、会社に対する意識としては、図3-1-17にあるように、「会社が好き」というポジティブな回答が約8割を占めた。

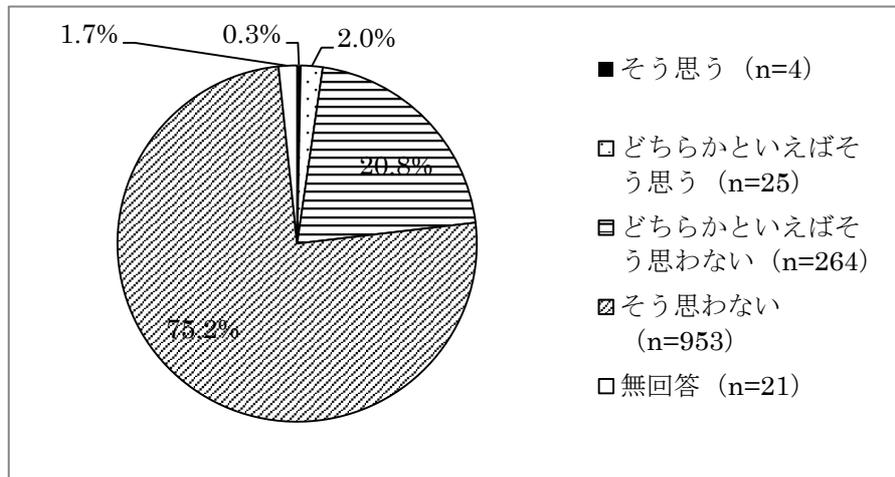


図3-1-16：すぐにでも転職したい

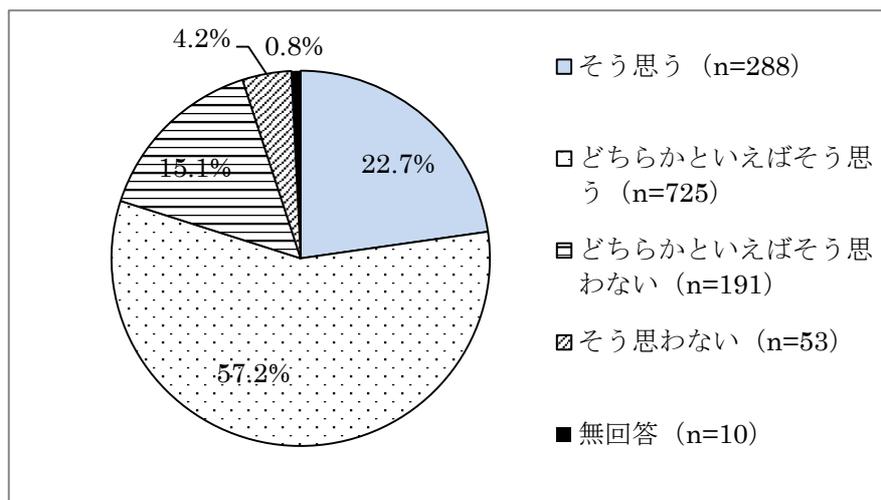


図3-1-17：会社が好き

それでは回答者は、現在の仕事内容や働き方について、どのように評価しているのだろうか。まず希望した部署に配属されてきたかという問に対しては、図3-1-18にあるように、回答者の67.6%が「そう思う」また「どちらかといえばそう思う」と回答している。

また配属に納得しているかという問に対しては、図3-1-19にあるように、83.5%がポジティブな回答をしている。これらの数値を比べると、希望した部署に配属されていなくても、納得はしているという従業員が一定割合いることがわかる。

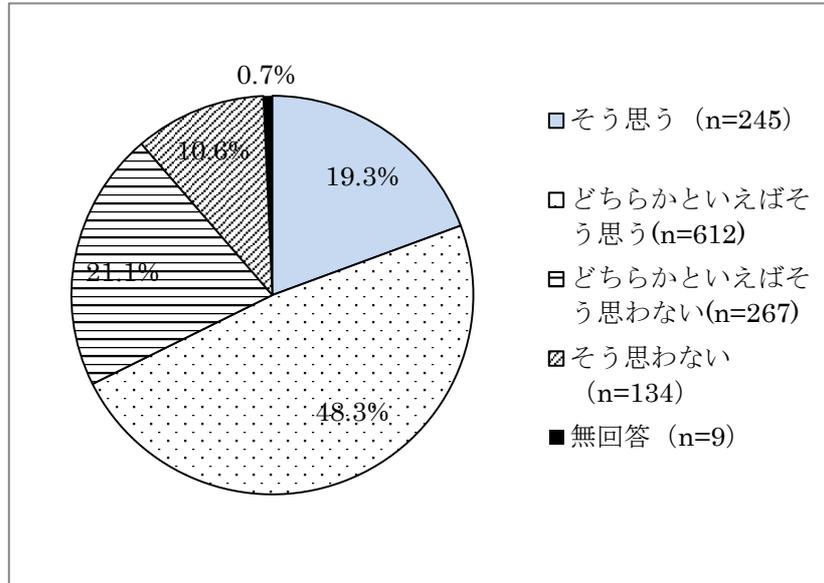


図3-1-18：希望した部署への配属

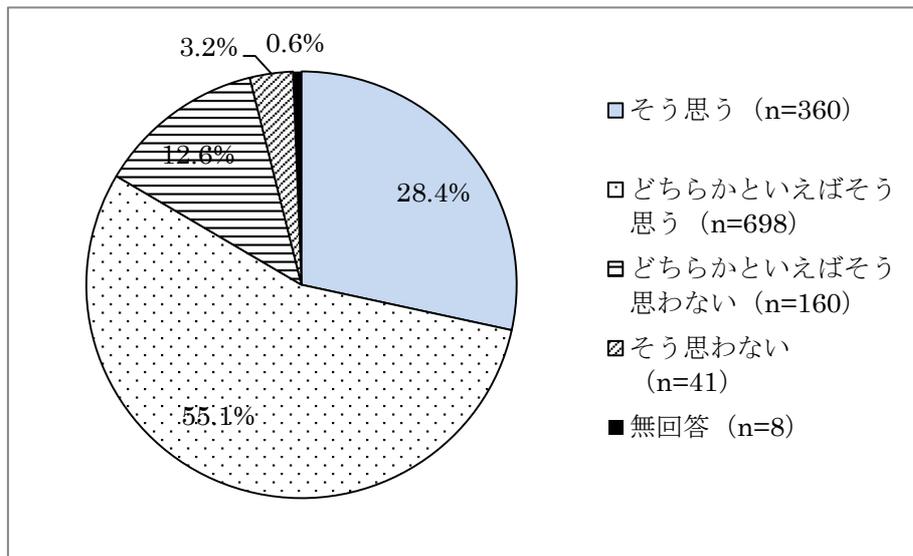


図3-1-19：配属に納得

それでは、現在担当している仕事の負荷についてはどうだろうか。

まず「仕事が難しい」という質問については、図3-1-20のように、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」が全体の50.9%、また「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」が48.4%となり、およそ半分の回答者が現在担当している仕事が難しいと感じていることがわかった。

また業務量については、図3-1-21にあるように、52.6%の回答者が「多い」または「どちらかといえば多い」を選択している。

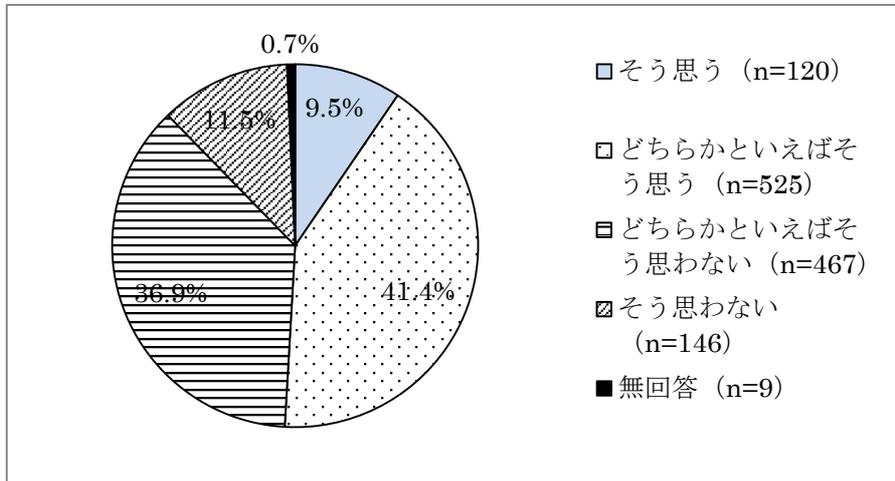


図3-1-20：仕事が難しい

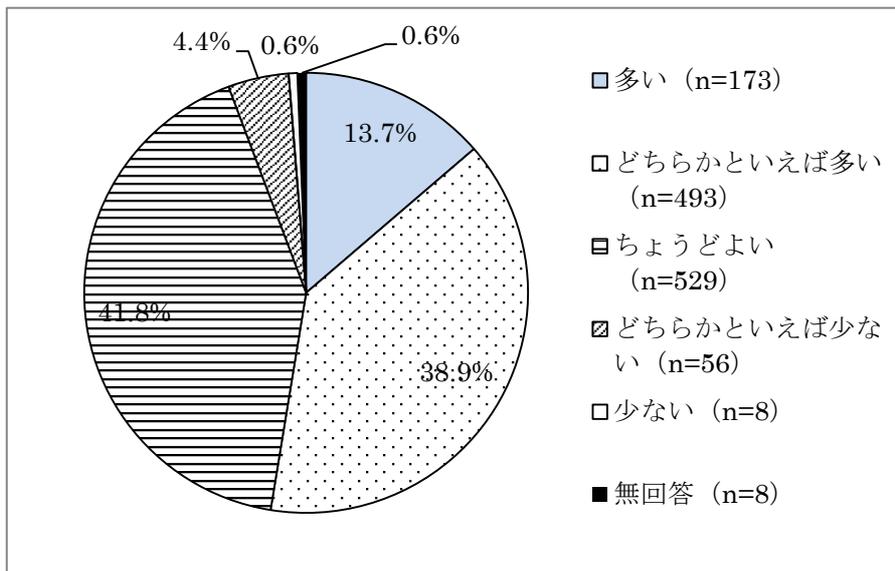


図3-1-21：業務量

そして労働時間については、図3-1-22のように、およそ半分の48.9%が「ちょうど良い」を選んでいるものの、46.8%が「長い」と「どちらかといえば長い」と回答している点には注目が必要だろう。

また所定外労働時間については、図3-1-23のように、月に40時間以内が全体の約8割であるが、一部に80時間以上の残業を行っている回答者がいることもわかった。

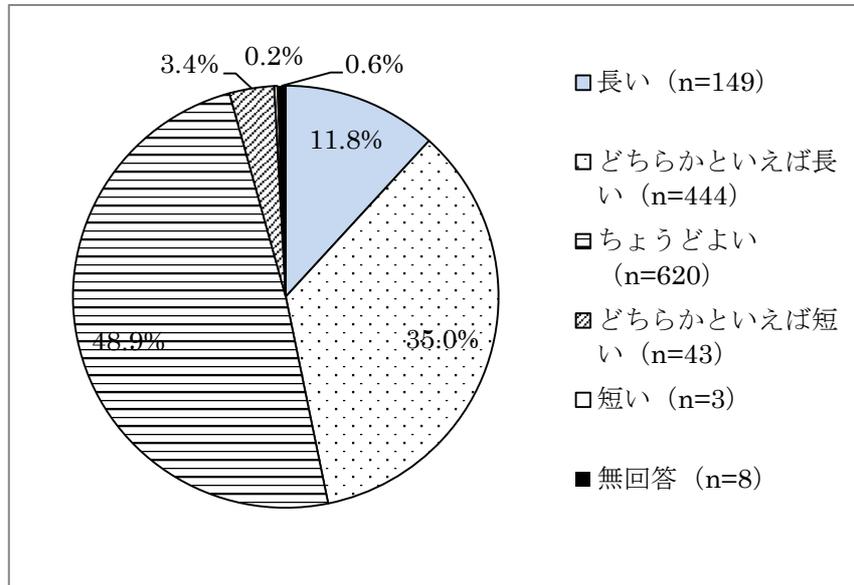


図3-1-22：労働時間

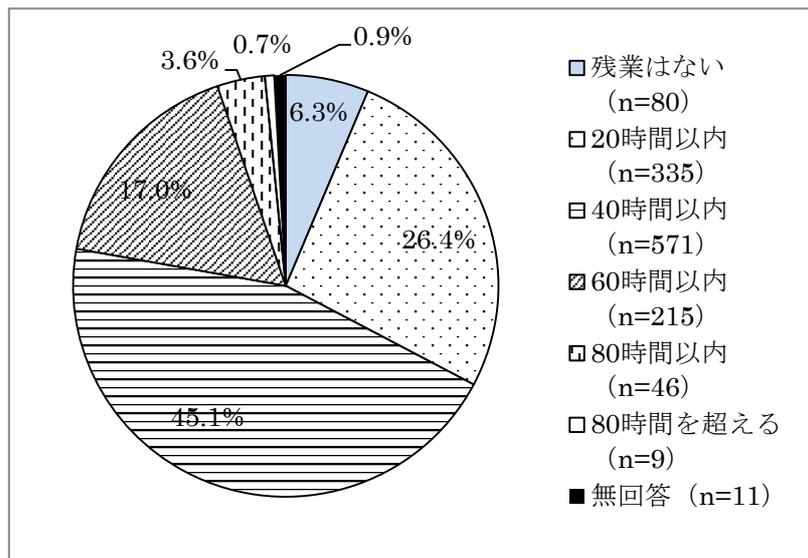


図3-1-23：所定外労働時間

それでは現在の働き方について、回答者はどのように考えているだろうか。まず働き方の自由度に関して、「仕事の進め方を自分で決めることができますか」という問いに、「できる」また「どちらかといえばできる」と答えた割合は、図3-1-24のように86.7%であった。これに対して、否定的な回答は12.7%であった。

またワークライフバランスについては、「適切」だと思う割合は、「どちらかといえばそう思う」を含めても、図3-1-25のように、32.5%にとどまった。これに対して、否定的な回答は66.9%と3分の2を超えている。

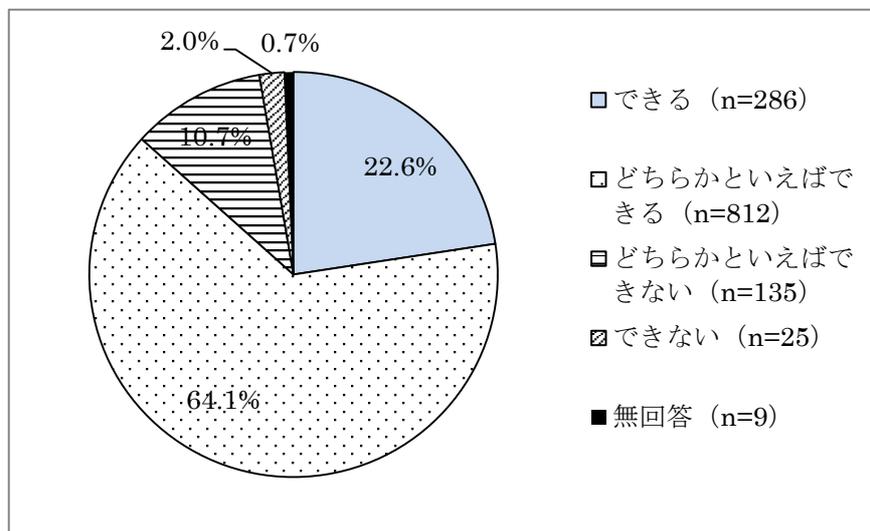


図3-1-24：仕事の進め方を決められる

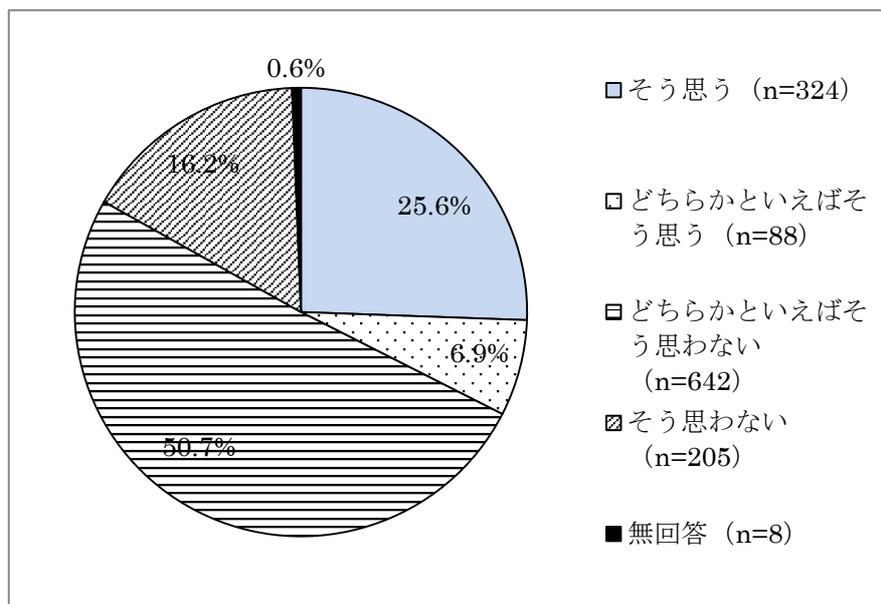


図3-1-25：ワークライフバランスは適切

仕事をする上で、お金を稼ぐために働くという面だけではなく、仕事そのものが楽しいといった面も労働者にとって重要である。また職場で必要とされている、周囲に貢献できているといったこと等も同様に關心事だろう。これらの点について、回答者はどのように考えているのだろうか。

まず「今の仕事を面白いと思いますか」という問への回答は、図3-1-26のように、「どちらかといえばそう思う」を含むポジティブな回答が73.9%である。また「今の職場で、自分は必要とされている」と思うかについては、図3-1-27のように、ポジティブな回答が83%、また「会社や部署に貢献している」と思うかについては、図3-1-28のようにポジティブな回答が83.3%、そして「今の仕事を通じて顧客や社会の役に立っている」と思うかについては、図3-1-29のようにポジティブな回答が76%といずれも高い数値である。

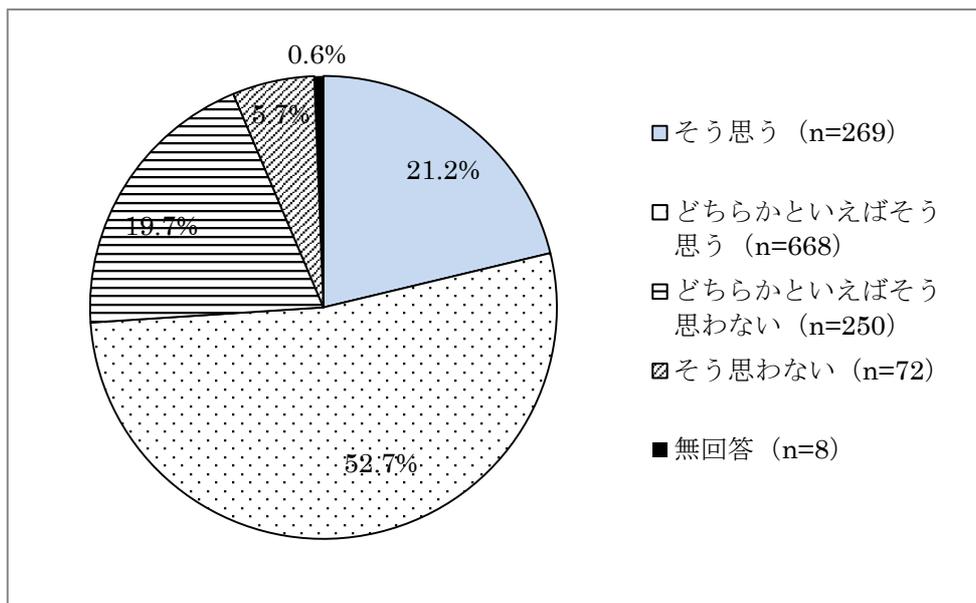


図3-1-26：仕事が面白い

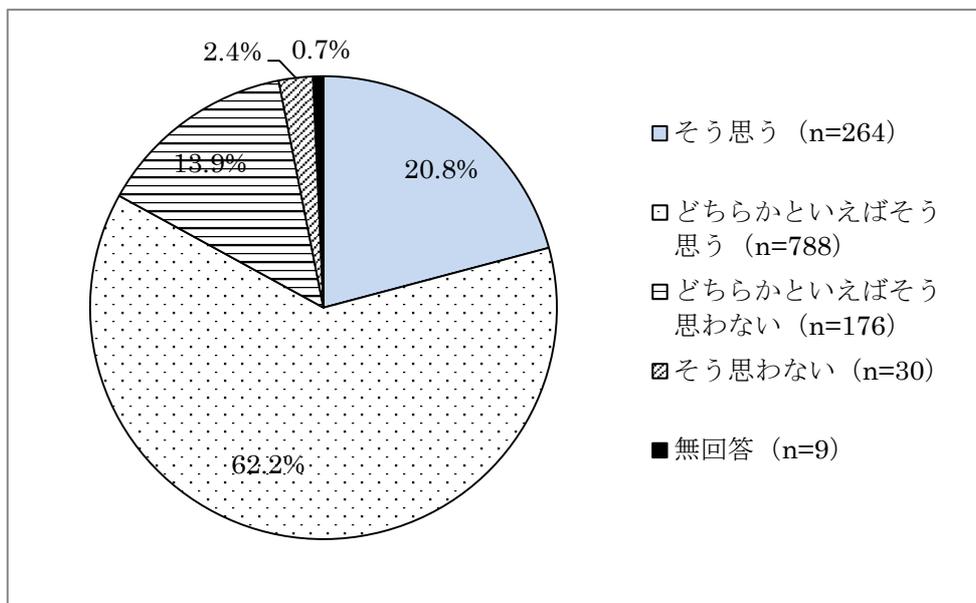


図3-1-27：職場で必要とされている

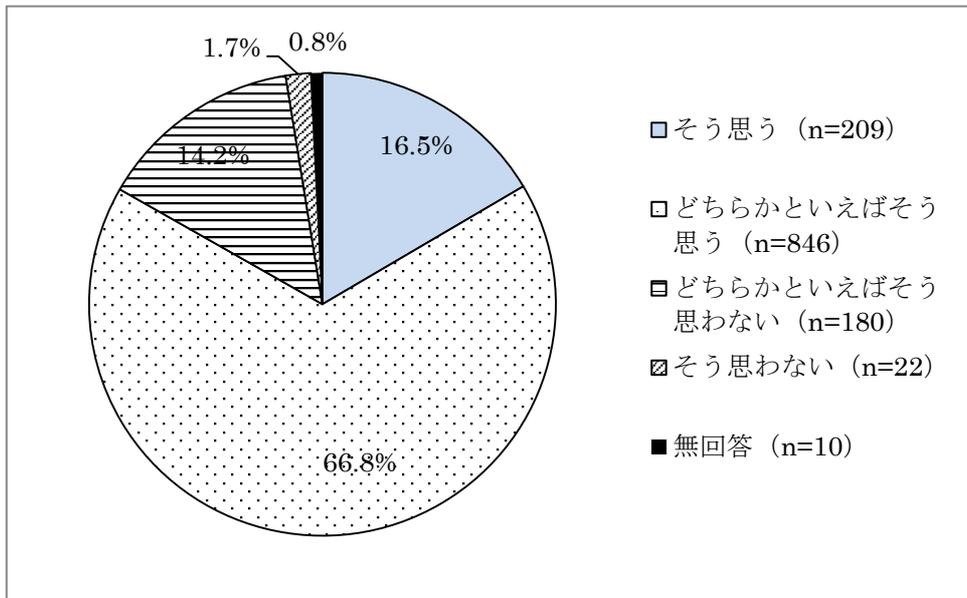


図3-1-28：会社や部署に貢献している

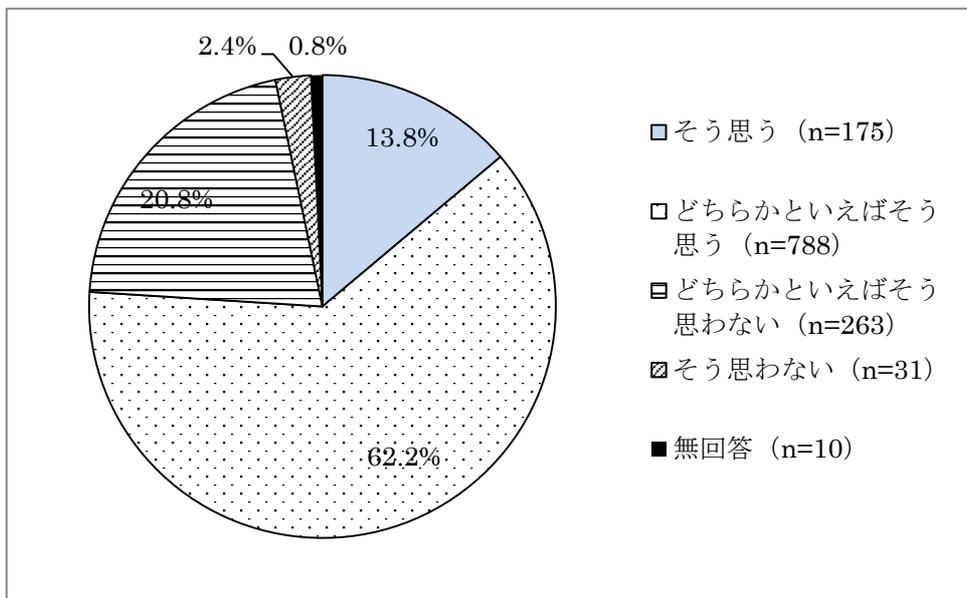


図3-1-29：仕事を通じて顧客や社会の役に立っている

なお今回のアンケート調査においては、中部地方の有力企業で働いている労働者が回答していること、また場合によってはアンケートの調査票が配られる対象者が選定される際に、相対的に見て貢献度が高い労働者が選ばれている可能性等も考えると、このような高い数値については、一般化することはできない点には留意が必要だろう。

続いて自分自身の自己評価として、回答者はどのような認識を持っているかを見ていきたい。

まず「人に負けない能力・技術・知識を持っているか」については、図3-1-30のように82.9%がポジティブな回答をしている。

また「今の部署で自分の能力を十分に発揮していると思うか」については、図3-1-31のように70.5%が、また「今の会社の他部署に移動しても、十分に活躍できると思うか」については、図3-1-32のように65.0%が、そして「同業他社に転職したとしても、十分に活躍できると思うか」については、図3-1-33のように60.3%がポジティブな回答をしている。

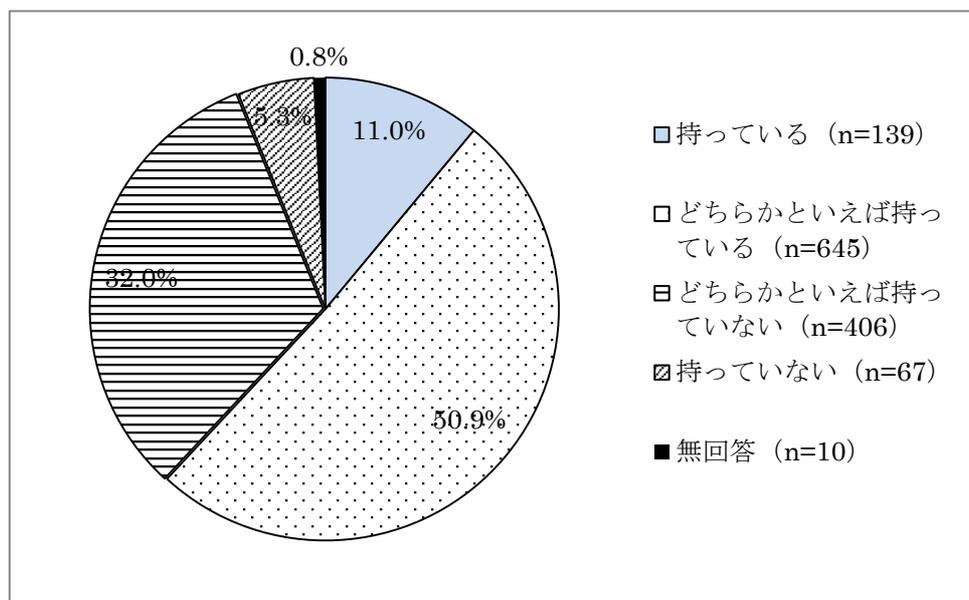


図3-1-30：人に負けない能力・技術・知識を持っている

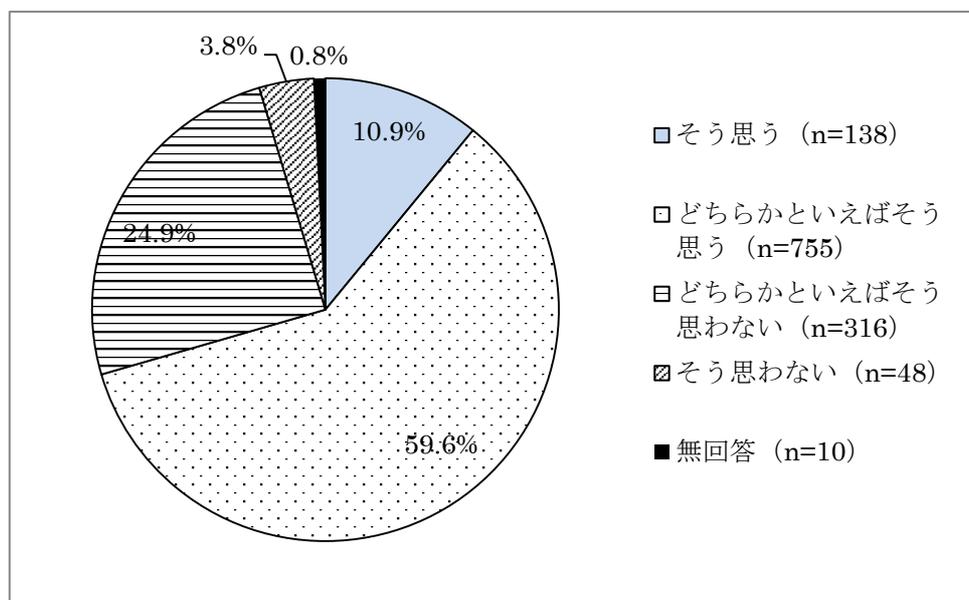


図3-1-31：今の部署で能力を十分に発揮している

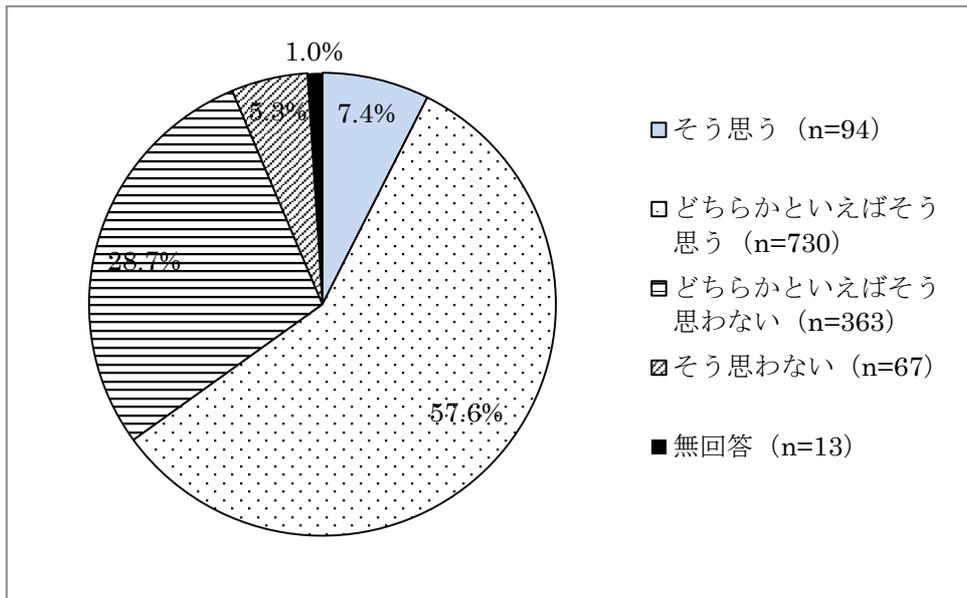


図3-1-32：今の会社の他部署でも十分に活躍できる

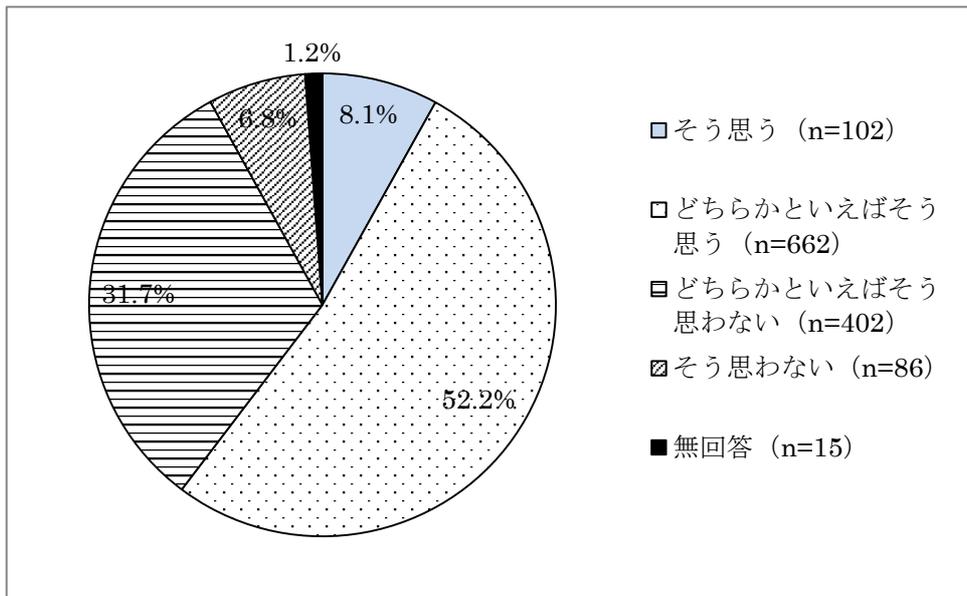


図3-1-33：仮に同業他社に転職しても十分に活躍できる

これに対して「異業種へ転職しても、十分に活躍できると思うか」については、図3-1-34のように、ポジティブな回答が半数を下回る46.8%であった。

現在の仕事から離れた仕事になると、ポジティブな回答が減っていく傾向があるものの、回答者は概ね高い自己評価を持っていることがわかる。

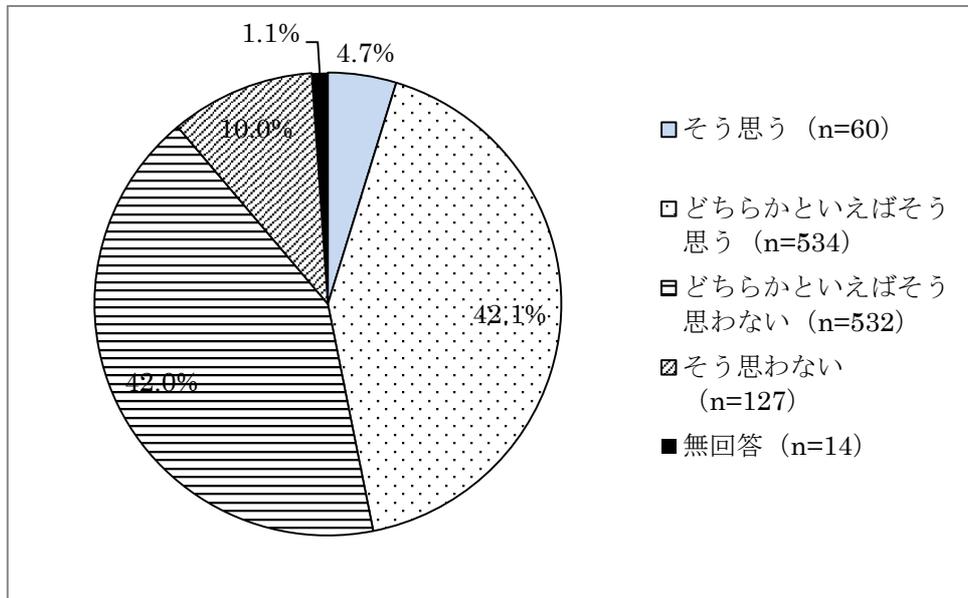


図3-1-34：異業種へ転職しても十分に活躍できる